



2026年9月30日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ヘ リ オ ス
代 表 者 名 代 表 執 行 役 社 長 C E O 鍵 本 忠 尚
(コード番号：4593 東証グロース)
問 合 せ 先 執 行 役 C F O リ チャード・キンケイド
(T E L : 0 3 - 6 8 0 7 - 5 9 3 7)

JENECCELL 社への培養上清製品の初回発注分の出荷時期に関するお知らせ

当社は、再生医療分野における革新的な治療法及び製品の開発と提供を目指して事業を展開しており、その一環として、体性幹細胞培養上清液を基盤とした製品の研究開発および製造販売を推進しております。

2026年4月7日付発表「[JENECCELL社との培養上清供給契約締結に関するお知らせ](#)」のとおり、当社は株式会社JENECCELL（本社：397 Seochodaero #A-1907, Seocho-gu, Seoul, 06616, South Korea (<https://www.jenecell.com>)、以下、「JENECCELL社」と言います。)との間で、化粧品原材料となる培養上清製品（以下、「製品」と言います。）を供給する契約を締結しております。

対象製品： ヒト（同種）骨髄由来体性幹細胞培養上清（HLSI071）

初回発注分1億4,400万円相当の製品について、当初2026年12月期第3四半期（7～9月）中に出荷を予定しておりましたが、出荷予定時期が2026年10月となりましたので、お知らせいたします。今回の出荷時期の変更は、既に完成・手配済み製品の海外への輸送に関する物流上の手続きの遅れによるものであり、製品の製造に問題が生じたものではありません。当社は、JENECCELL社と緊密に連携し、速やかな出荷に向けて準備を進めてまいります。

今後の見通し

本出荷に係る売上は、出荷完了時に計上する予定であり、当初見込んでおりました2026年12月期第3四半期から、同第4四半期の計上となる見込みです。出荷完了時には改めてお知らせいたします。今後、開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

■株式会社 JENECCELL について

JENECCELL社は、医療用医薬品卸売上高国内No.1の企業グループであるアルフレッサホールディングス株式会社の子会社であるアルフレッサ株式会社の韓国子会社であり、幹細胞を基盤とした医薬品、医療機器、化粧品など多様な分野において、先端技術を活用した革新的な製品を開発しています。特に、幹細胞培養上清液（Stem Cell Conditioned Media, MSC-CM）を基盤としたプレミアム・コスメティック事業を通じて高機能スキンケア

ア製品の開発を推進しており、韓国の有望なバイオおよびヘルスケア企業との戦略的協力を基盤に、イン&アウト（In & Out）ビジネスおよびM&Aを積極的に推進するなど、オープンイノベーション戦略を展開しています。

<https://www.jenecell.com>

■株式会社ヘリオスについて

再生医療は、世界中の難治性疾患の患者さんにとって新たな治療法として期待されています。この分野では、製品開発・実用化への取り組みが広がり、将来的には大きな市場となるが見込まれています。ヘリオスは、iPS細胞（人工多能性幹細胞）などを用いた再生医薬品開発のフロントランナーとして、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。2011年に設立、2015年に株式上場（東証グロース: 4593）し、再生医薬品の実用化を目指して研究開発を進めています。体性幹細胞再生医薬品分野では、健康な成人ドナー骨髄由来の体性幹細胞から成る独自の細胞製品であるHLCM051を使用した急性呼吸窮迫症候群（ARDS）や脳梗塞急性期及び外傷由来急性腎不全（AKI）の治験を実施しています。HLCM051は、強力な抗炎症作用と免疫調節作用を示しており、さまざまな病態への応用が可能です。後期臨床試験において数百人の患者さんで試験され、3D培養法で一貫して製造されており、複数の適応症において数百人の患者さんで安全性と有効性の両方が実証されています。ヘリオスは、ARDS、脳梗塞急性期、外傷由来急性腎不全（AKI）に対し、HLCM051をグローバルに推進してまいります。iPSC再生医薬品分野では、免疫拒絶のリスクを低減する次世代iPS細胞であるユニバーサルドナーセル（UDC: Universal Donor Cell）を作製し、さらには、遺伝子導入技術により固形がんに対する殺傷能力を強化した次世代NK細胞（eNK®細胞）AKT-01/HLCN061の開発を、当社の開発パートナーである株式会社Akatsuki Therapeuticsの主導で、治験開始に向けて進めています。eNK®細胞は、動物モデルにおいて強固な抗腫瘍効果を実証しており、大量生産が可能な3Dバイオリアクターでの製造プロセスを実現しています。これらにより、がん免疫領域をはじめ、眼科領域、肝臓領域などで新規治療薬の開発に取り組んでいます。 <https://www.healios.co.jp>